

1. はじめに

今、我々が生きる社会を安定して持続させているシステムとして税制がある。武士の世では、年貢という形の税が農民に課せられ、幕藩体制を支えていたことがわかる。民主主義の現代にあっては、収入や財産等に応じて課税することで社会を維持している。教育基本法には「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とある。税について学ぶことは、国民としての基礎的な知識を得ることであると考える。

2. 指導の方向

- (1) 「日本の歴史」を学ぶ中で、その社会を維持・発展させるために行われてきた「税」をおさえさせる。
- (2) 「わたしたちの生活と政治」では、憲法学習の中の「国民の権利と義務」の学習の中で直接的に税金について義務があることを学ぶ。なぜそうした義務があるかも大まかにとらえさせる。
- (3) 税務署の職員にゲストティーチャーとなってもらい、税の持つ意味、大切さを明確にとらえさせる。

3. 指導の実際

- (1) 「日本の歴史」において（東京書籍の教科書において）おさえさせた語句や内容
 - 「天皇中心の国作り」
 - (P30) (資料) 人々の負担「 租 調 庸 」
 - 「武士の世の中」
 - (P 71) (資料) 秀吉が出した刀狩り令 「 年貢 」
 - (P 77) (本文) 「収穫の半分にもなる重い年貢」
 - (P 79) (本文) 「重い年貢の取り立て」
 - (P 97) (資料) 渋染一揆 「 年貢を納める 」
 - (P105) (本文) 「地租改正」
 - (資料) 明治政府の諸政策 「土地の価格の3%を現金で納める」
- (2) 「わたしたちの生活と政治」において おさえさせた語句や内容
 - (P 10) (本文) 「税金の働きを調べる」
 - (P 31) (資料) 「国民の義務」

(3) 税務署員をゲストティーチャーに迎えた税の学習

① みんなの知っている税金にはどんなのがある？ 税金の種類



② 宝くじの当選者には税金がかかる？



③ 税金を進んで払いたい？ 6人中 5名が微妙



④ DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の視聴

税金が無くなる世界を体験し税金の大切さを楽しく感得させた。

⑤ 税金が無ければ学校で勉強するのに、どれだけのお金がかかるか？ 月7万

⑥ 税金が何に使われるか確認



⑦ 1億円の量と重さを体感し，高額な金額に実感をもつ。



⑧ 感想発表

どの児童も税金の大切さを納得し，進んで納税の義務を負う旨を話した。

4. 実践を終えて

- (1) 歴史学習の視点としてよりよい社会のしくみを考えるために「税」を意識して取り上げておくことは，租税教育を進めるうえでも大切なことと思われる。
- (2) ゲストティーチャーは，子どもたちにとって印象深い授業であった。
- (3) ゲストティーチャーを迎えての租税教育のタイミングは「税金の働きを調べる」時期に合わせて行うことも良いと思われる。スパイラルな指導が行われることで理解が深まると考えたので本実践では前述のタイミングで行った。
- (4) 「日本とつながりの深い国々」の学習において，可能な限りそれぞれが取り上げた国の税の様子を調べさせるのも意義があることと思う。